

## 【訂正とお詫び】

午後Ⅰ問題の問 3 の設問 3(2)C の解答に誤りがありましたことお詫びして訂正させていただきます。

訂正に関する詳細は、弊社 Web サイトにアップしております。正誤表をご確認ください。

採点処理では、正しい解答に基づき、採点をしております。

受験者の皆様には混乱を与えることになってしまい、改めて深くお詫び申し上げます。

## ■ 全体講評

今回の午後Ⅰ記述式試験では、全体的に採点基準を厳しくしており、午後Ⅰ記述式試験の平均得点は、例年にどおり低くなりました。

午後Ⅱ論述式試験では、問 1 設問ウを選択した受験者が全体の 7 割ほどと多く、“他システムへの影響”及び“影響の抑制策”について論じることが難しく、全体の平均得点は、例年どおり低いです。

これら平均得点が低いという事実は、記述式問題では本試験に向けてケアレスミスが減らして確実に得点すし、また論述式問題では確実に“工夫”を採点者にアピールして他者の論文と差別化、採点基準を厳しくしていることに起因し、受験者のレベルを示しているわけではありません。記述式、論述式を通して、問題の選択漏れが 2%ほどで、例年になく低い値であり、本試験まで、あと 1 か月間における受験者の合格に向けての意気込みを示していると考えます。

今回の本試験も受験者の合格意識の高い、レベルの高い試験になることが予想できます。これから説明する解答作成のノウハウを確認して得点力をアップし、確実に合格していきましょう。

## ■ 記述式試験

記述式試験において突破レベルをクリアするために留意すべき点を、記述式問題別に挙げておきます。具体的には、各問題の講評を参照してください。

## 【問 1 クラウドサービスへの移行の企画】

- (1) 問題文中にある漢字を解答に書く際に“誤字”に気を付ける
- (2) 穴埋め問題では前後の表現に倣って解答を作成する
- (3) 問題文中にある具体的なキーワードを使って解答する

## 【問 2 販売サイト開設】

- (1) 問題文中のキーワードを確実に盛り込む

- (2) 場合によっては業務の観点で解答を作成する

## 【問 3 持ち帰り弁当チェーン店システムにおける災害対策】

- (1) 解答は具体的に表現する
- (2) 問題文中の表記を正確に解答に反映する
- (3) 複数の送信元と送信先がある場合、送信するデータだけではなく、送信元と送信先を含めて解答を作成する
- (4) 業務特性に関わる問題文の記述には留意する

## 【問 4 発電ステーションシステムの設計】

- (1) 設問文にある“～の観点から”という記述を満たすように解答を導く
- (2) 問題文の粒度に合わせて解答を表現する

記述式問題を解く上での留意点を、次に挙げておきます。

## (1) 難易度の低い設問を確実に得点する

難易度の高い設問を解けることも重要ですが、難易度の低い設問を確実に得点して、確実に得点を積み重ねることが合格には不可欠です。したがって、時間が余ったら、既に解けていると思った設問の解答についても、全ての解答条件を満たしているか、について確認するようにしましょう。

## (2) 記述式問題では実質ページ数に留意する

問題の量で問題を選択する場合、ページ数や設問数だけでなく、問題を選択するのではなく、表などに小さい字で書かれていないかについてもチェックしましょう。

## (3) 解答済みの設問を見直す

ケアレスミスがあるかもしれません。解答条件を確認した上で、もう一度解答済み解答欄をチェックしてみましょう。もしかしたら、例えば〔設問 X〕(3)で解答すべき点を〔設問 X〕(2)で解答してしまっているかもしれません。このような場合では失点が多くなるので、設問文と解答を見直し、確実に回避する必要があります。

## ■ 論述式試験講評

論述式問題では、基本的な部分ができている、あるいは、論文としての体裁が整っていない解答がありました。次の点に留意してください。

## (1) 質問事項の回答漏れをなくす

解答用紙の先頭にある質問も採点対象です。論述後に書こうと思っている人に、記入漏れが多いようです。遅くとも論文設計が終わったら、解答を書くようにするとよいでしょう。

試験開始前に見ても問題がないことを確認した上で、試験開始前に解答用紙を開いて質問事項を確認しておくといでしょう。そのとき、設問イや設問ウの論述開始箇所も確認しておきましょう。

#### (2) 計画やシステムの名称は例に倣って書く

質問事項において、最初に問うている30字が計画やシステムの名称になっていないものが多いです。例を基に自分でチェックしましょう。計画やシステムの名称を例に倣って修飾すること、例と同じ語尾になること、も大切です。本番の試験でも、質問事項は採点対象なので、漏れなく回答するようにしましょう。

#### (3) 論文は1枚ずつ書く

書いた文字が重なり合った状態で、その上から字を書く、双方のページに字が写るので、論文は1枚ずつ書くといです。

#### (4) 事例の詳細を書く

一般論を書いているのは、合格は難しいです。問題にもよりますが、「一般的には～」などと書かないようにしましょう。「～という～の特徴を踏まえて」など、論述の題材とした事例の特徴を踏まえて論旨展開をすることが重要です。

#### (5) 論文の体裁を整える

採点には大学の教員も担当することもあります。細かい点ですが、できれば、以下の点に留意してください。

##### (a) 禁則処理をする

(b) 箇条書で、節を書き始めない、書き終えない

(c) 「いただく」、「頂く」、「お客様(固有名詞を除く)」などの丁寧語は使わない

(d) 「思う」は使わない

(e) 括弧は、「(以下、～という)」以外では使わない

(f) 問題にある漢字をひらがなや誤った字で書かない

(g) 略字を書かない

(h) 「である」調に統一する

(i) 誤字に留意する。例えば、「購買」を「購売」、「実績」を「実積」などと書かない

(j) 箇条書のタイトル以外で、体言止めを使わない

(k) 500字を超える長い段落は読みにくいので、適切な長さで段落を構成する

以上、細かいですが、このような点に着目して採点をするケースもあると考えてください。

次に午後の記述式試験の詳細な講評を説明します。

#### <午後Ⅰ>

#### 【問1 クラウドサービスへの移行の企画】

##### 【講評】

問題文中にある漢字を解答に書く際に“誤字”に気を付けましょう。具体的には〔設問1〕(1)において半数

以上が“購買”を“購売”と書いていました。

穴埋め問題では前後の表現に倣って解答を作成するようにしましょう。具体的には〔設問1〕(2)の空欄bの解答では、空欄の前に記述されている“クラウドセンタ内のシステム”を必須としています。

受験者のレベルを示しているわけではありません。問題文中にある具体的なキーワードを使って解答するようにしましょう。具体的には〔設問2〕(3)では“コスト”という表現を使っては得点できません。“イニシャルコスト”、“ランニングコスト”というキーワードが問題文中に使われているので、どちらかに特定できる場合は、該当するキーワードを使って解答します。当該設問では“ランニングコスト”が該当します。

##### 〔設問1〕

(1) “販売システム”を導くのが難しかったようです。“在庫システム、生産システム、購買システム”まで求めた解答については3点としました。

(2) “クラウドセンタ内のシステムとクラウドセンタ外のシステム”については、表2及び〔クラウドサービスのサービス形態の調査〕の〔設問1〕の記述からESBツールが必要となりオプション費用のツール利用費がかかることが分かるので、問題文にある二つ目の空欄b前後の記述と矛盾が生じます。したがって、“クラウドセンタ内のシステムとクラウドセンタ外のシステム”という解答は3点としました。

##### 〔設問2〕

(1) 趣旨が合っていれば正解としました。

(2) 部分点なしの完答のみで採点しました。正答率は5割ほどでした。

(3) 3割くらいの方が“ランニングコスト”を解答に盛り込むことが難しかったようです。

##### 〔設問3〕

(1) “販売システム”という解答が散見されました。解答解説にあるとおり、厳しいですが不正解としました。

(2) 直前の(1)が不正解であっても、趣旨が合っていれば正解としました。

##### 【採点基準】

##### 〔設問1〕

(1) 順不同で、解答例と同じものに対し7点、“在庫システム、生産システム、購買システム”が指摘されている解答は3点、その他は基本的に0点。

(2) “クラウドセンタ内のシステム”と“ファームバンキングシステム”を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点、ただし、“クラウドセンタ内のシステム”、“ファームバンキングシステム”のうち、どちらかだけを含む解答は3点、その他は基本的に0点。

[設問 2]

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点, その他は基本的に 0 点。  
(2) 解答例と同じものに対し 8 点, その他は基本的に 0 点。  
(3) “ESB ツール”と“クラウドサービスのランニングコスト”を必須とし, 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点, ただし, “ESB ツール”, “クラウドサービスのランニングコスト”のうち, どちらかだけを含む解答は 4 点, その他は基本的に 0 点。

[設問 3]

- (1) 解答例と同じものに対し 5 点, その他は基本的に 0 点。  
(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点, その他は基本的に 0 点。

**【問 2 販売サイト開設】**

**【講評】**

解答には**問題文中のキーワードを確実に盛り込む**ようにしましょう。具体的には, [設問 1] (1)において, “タブレット”を必須としています。更に [設問 2] において, 問題文の最初から二番目の段落の最後の文にある“入出金管理”を必須としています。

**場合によっては業務の観点で解答を作成する**ようにしましょう。具体的には [設問 3] の注文伝達の解答について, “メールの受信は数分以内に確認できるから”という旨の解答は不正解とし, “注文”を必須としています。

[設問 1]

- (1) “各店舗の特色を出せる”旨の解答が散見されました。解答解説にあるように, 問題の展開が“タブレット”や“PC 操作に詳しくない”旨に寄っていることを根拠に, 厳しいですが, このような解答については不正解としました。  
(2) 厳しいですが“設定”を必須としました。

[設問 2]

“入出金管理”を必須としました。

[設問 3]

注文伝達では, “メール”ではなく, 業務の観点から“注文”を使って解答を表現します。

[設問 4]

状況: “現金購入をした場合カウントされない”旨を指摘した解答がありました。問題文の [販売サイトへの要望や制約] (4) に“販売サイトで~”とあるので, 現金購入や来店での購入を指摘した解答については厳しいですが, 不正解としました。“販売サイトでの購入”を必須としました。

機能: 現金購入や来店での購入に関わる機能は, 厳しい

ですが, 不正解としました。

**【採点基準】**

[設問 1]

- (1) “タブレット”又は“PC 操作に詳しくない”旨を必須とし, 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点, その他は基本的に 0 点。  
(2) “設定”を必須とし, 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点, その他は基本的に 0 点。

[設問 2]

“入出金管理”を必須とし, 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点, その他は基本的に 0 点。

[設問 3]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 7 点, ただし, 注文伝達の解答については“注文”を必須とする。その他は基本的に 0 点。

[設問 4]

状況: “販売サイトでの購入”と“キャンセル”を必須とし, 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点, その他は基本的に 0 点。

機能: “現金での購入”と“来店での購入”を含む解答は不正解とし, 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点, その他は基本的に 0 点。

**【問 3 持ち帰り弁当チェーン店システムにおける災害対策】**

**【講評】**

[設問 3] (2) の計算問題の解答解説とその正解例が間違っています。表 1 において作業順序 (2) でデータベースのリストアは完了しているので, 前日の午前 1 時 0 分から当日の午前 0 時 0 分までに送信した 24 の更新ログが対象となり,  $5 \text{分} \times 24 = 120 \text{分}$  が正解となります。

解答は具体的に表現するようにしましょう。[設問 1] (1) の“復旧時間の観点”では, メリットを問われているので, “復旧時間の短縮ができる”だけでは得点できません。指定字数が 40 字と多い場合は, 例えば, 根拠を含めるようにします。この設問では“本社発注処理を両センタで処理することで”が, 根拠に該当します。

**問題文中の表記を正確に解答に反映する**ようにしましょう。具体的には, [設問 1] (1) や (2) において, “関西バックアップセンタ”を“関西センタ”と表記した解答が散見されました。

文字数に余裕があり, 問題文において**複数の送信元と送信先がある場合, 送信するデータだけではなく, 送信元と送信先を含めて解答を作成する**ようにしましょう。具体的には [設問 1] (2) と (3) では, 送信元として, 関東センタと関西バックアップセンタが考えられます。このようなケースでは, 送信するデータ名だけではなく,

送信元と送信先を含めて解答を導くようにします。

**業務特性に関わる問題文の記述には留意する**ようにしましょう。具体的には、〔設問 2〕(2)の“業務特性の観点から”に関わる問題文の“特定時期において単位時間当たりのトランザクション数が平常時の 5 倍ほどに増大する”が該当します。

〔設問 1〕

(1) “本社発注処理を両センタで処理する”旨の解答を導くことは難しく、正答率 2 割ほどでした。  
(2), (3)適切な送信元, 送信先, 送信データを含めた解答を正解としました。

〔設問 2〕

(1) “ランニングコスト”を必須としました。高い正答率でした。  
(2) “業務特性の観点から”という解答条件を加味して解答を導く必要があります。このような問題は高頻出なので、業務特性に関わる問題文の記述は要チェックです。  
(3) 正答率 7 割ほどでした。

〔設問 3〕

(1) 1 日前ではなく“10 月 20 日午前 0 時 0 分”という解答が散見されました。10 月 20 日午前 0 時 20 分に災害が発生した場合、この時点のバックアップはクラウドサービス側に送信完了していないことを問題文から確認してください。  
(2) “115 分”という解答が散見されました。問題文の“フルバックアップと更新ログの両方の送信と保管を並行した場合でも所要時間は変わらない”という記述から、解答解説にある午前 0 時 20 分で災害が発生したケースでは、午前 0 時 0 分にフルバックアップと更新ログが並行して送信され、そのうち更新ログは 5 分で送信が完了していると考えてください。

【採点基準】

〔設問 1〕

(1) 復旧時間の観点：“本社発注処理を両センタで処理する”旨を必須として、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は基本的に 0 点。  
店舗側の作業の観点：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は基本的に 0 点。  
(2) “関西バックアップセンタから仕入先に”を必須として、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、“配信用データは配信する”だけを指摘した解答は 2 点、その他は基本的に 0 点。  
(3) “関西バックアップセンタから関東センタに”を必須として、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、“発注済データは送信する”だけを指

摘した解答は 2 点、その他は基本的に 0 点。

〔設問 2〕

(1) “ランニングコスト”を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点、その他は基本的に 0 点。  
(2) “特定時期のトランザクション数の増加”を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点、クラウドサービスのスケーラビリティだけを指摘した解答は 3 点。その他は基本的に 0 点。  
(3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点、その他は基本的に 0 点。

〔設問 3〕

(1) 解答例と同じものに対し 6 点、その他は基本的に 0 点。  
(2) 解答例と同じものに対し 6 点、その他は基本的に 0 点。

#### 【問 4 発電ステーションシステムの設計】

【講評】

設問文にある“～の観点から”という記述を満たすように解答を導くようにしましょう。具体的には〔設問 2〕(4)の“スマートグリッド内の電力の品質を安定させるためのグリッドサーバの動作の観点から”という記述が該当します。この観点に該当する問題文は“グリッドサーバは、商用電力網の電力の品質を安定させるために～”で始まる文になります。

問題文の粒度に合わせて解答を表現するようにしましょう。具体的には〔設問 2〕(2)において、定量的な表現を含まない解答が散見されました。下線②の周辺では、“風力発電部は 12kW”など定量的に表現しているので、解答も定量的に表現する必要があります。

〔設問 1〕

(1) “水素タンクが貯蔵可能”という点が含まれていない解答が散見されました。厳しいですが不正解としました。  
(2) 高い正答率でした。  
(3) 5 割ほどの正答率でした。

〔設問 2〕

(1) 高い正答率でした。  
(2) 下線②の前後の文章を倣って、定量的に表現するようにします。  
(3) 2 割ほどの低い正答率でした。  
(4) 〔設問 1〕(3)と類似した設問ですが、正答率は低くなっています。

〔設問 3〕

(1) 高い頻度で問われる観点なので、“圧力センサ”と“貯蔵量センサ”を必須とし、厳しいですが部分点なし

としました。本試験で類似問題が出題された場合、確実に得点できるようにしておきましょう。

(2) “水電解装置や蓄電池”を必須としました。

#### 【採点基準】

##### 〔設問 1〕

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は基本的に 0 点。

(2) 解答例と同じものに対し 5 点、その他は基本的に 0 点。

(3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は基本的に 0 点。

##### 〔設問 2〕

(1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は基本的に 0 点。

(2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は基本的に 0 点。

(3) 解答例と同じものに対し各 5 点、その他は基本的に 0 点。

(4) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は基本的に 0 点。

##### 〔設問 3〕

(1) “圧力センサ”と“貯蔵量センサ”を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は基本的に 0 点。

(2) “水電解装置や蓄電池”を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は基本的に 0 点。

#### <合格に向けて>

みなさん、自分の改善すべき点を確認して、合格を決めましょう。次のような改善策があります。参考にしてください。

#### 【午前 I・II 多肢選択式問題】

学習方法基本は、過去問題を解き、解答解説を含めてしっかりと勉強することです。分からない点はテキスト学習でカバーするとよいでしょう。素晴らしい論文を書いている受験者に、前回不合格になった原因を聞くと、午前 II において足切りになった方が多いことが分かります。午前 I 免除の方も、午前 II 対策については、試験直前まで、継続するようにしましょう。

#### 【午後 I 記述式問題】

過去問題の演習を中心に学習を行い、解答については、本試験と同様に鉛筆で書くようにしましょう。解答と正解例のギャップをチェックして、それらに違いが生じた原因を簡単に分析するとよいでしょう。

記述式問題では、設問の条件を全て満足する解答を作

成することが重要です。解答欄に記入する前にもう一度解答条件をチェックしてみましょう。

#### 【午後 II 論述式問題】

鉛筆で書いていない解答が散見されます。指定の鉛筆で書くようにしましょう。

制限時間内に書くためには、問題文の趣旨に沿って事例の詳細を展開させるように書くことが重要です。ただし、問題の趣旨をなぞるように書くことはやめましょう。しっかりと掘り下げて書くことが重要です。

一般論を展開するのではなく、**対象業務の特徴や、システムの特徴を踏まえて、論旨展開**することが大切です。

経験側ですが、自宅において 3 時間ほどで書ければ、本試験において 2 時間以内で書ける可能性は高くなるようです。論文練習を含めて本試験では、書き終わったら必ず解答を見直すようにしてください。“**自分が書いた解答を見直すことができる**”は、他の受験者との競争優位点になります。

以上を踏まえて、本試験当日までががんばり合格を、より確実にしましょう。

—以上—